



三島 喜美代、メモリーⅢ、1969、ミクストメディア、H162 × W130.5 cm

三島喜美代

2021年1月27日（水） - 2月27日（土）

艸居アネックス

604-0924 京都市中京区一之船入町 375 SSS ビル 3 階

開廊時間：1:00-6:30PM 定休日：日・月

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2

Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089

T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



プレスリリース

艸居アネックスでは、三島喜美代の京都国立近代美術館での「2020 年度第4回コレクション展」開催を記念して、60年代の平面作品から最新作の立体作品までを展示致します。画家としてキャリアを踏み出した三島が、現在の作風を確立するまでの歩みをご高覧いただけますと幸いです。

1932年に十三（大阪）に生まれた三島は、50年代より伊藤継郎のアトリエに通い絵画の制作を始めました。その後、三島茂司に師事し、新聞紙、雑誌、馬券、蚊帳など、印刷物や廃材を使用した実験的なコラージュ作品に取り組みました。1954～69年にかけて出展した独立展（東京都美術館で開催）では大阪市賞（1961年）、独立賞・須田賞（1963年）を受賞し、1964年には国立近代美術館京都分館で開催されました「現代美術の動向—絵画と彫塑」展に出品しました。その他、関西独立展、独立新人選抜展（東京都美術館開催）、朝日新人展（朝日新聞社主催）などに出展し、日本の前衛美術において画家として頭角を現しました。

1971年からは素材を土に移行し、新聞紙、広告ビラ、コミックブックなどをシルクスクリーンで土に転写した立体作品を制作しました。「氾濫する情報に埋没する恐怖」や「現代の消費社会から生み出されるゴミへの危惧感」を割れる緊張感のある陶で表現することで、三島作品における表現の可能性を広げていきました。2001～2005年には溶解スラグ*を使って、巨大なゴミ箱「もうひとつの再生 2005-N」を制作し直島に野外設置しました。2019年には大英博物館での大規模マンガ展「The Citi exhibition Manga」に出展、收藏され、国内外で更なる注目を浴びました。

「命がけで遊んでいます」と語る三島の作品は、現代の消費社会や情報社会に警笛をならしながらも、絶妙なユーモアに富み、どこか温かい人間味を感じさせます。本物なのかゴミなのか区別がつかなくなるほど精巧につくられた「割れるゴミ作品」は、時には人を驚かせ、鑑賞者の心を惹きつけてやみません。昨年からコロナという感染症の蔓延により世界情勢が不安に包まれました。しかし、私たちは環境問題という次なる課題を背負っています。本展を通して私たちの将来を見つめる機会になると幸いです。

* 廃棄物や下水汚泥の焼却灰等を 1400℃以上の高温で溶解して出来たガラス粉。

三島 喜美代（みしま きみよ）

1932年大阪府生まれ。現在は十三（大阪）と土岐（岐阜）にて制作を行う。1954年より独立展に出展。のちに夫となる三島茂司に師事。1986-87年ロックフェラー財団の奨学金によりニューヨークに滞在。主な受賞歴は独立奨励賞（1954年）、関西独立同人賞（1961年）、関西独立賞（1964年）、第9回シェル美術賞展佳作賞（1965年）、関西独立努力賞受賞（1966年）、ファエンツァ国際陶芸展金賞（1974年）、第11回現代日本美術展佳作賞（1975年）、日本現代陶彫展'88金賞（1988年）など。



2019年にはトリノ（イタリア）で開催された Artissima にて、Sardi per l'Arte Back to the Future Prizeを受賞。同年、芸術家としては初めての第5回安藤忠雄文化財団賞を受賞している。主なコレクションには京都国立近代美術館（京都）、国立国際美術館（大阪）、東京都美術館（東京）、京都市京セラ美術館（京都）、兵庫県立美術館（神戸・兵庫）、ベネッセアートサイト直島（岡山/香川）、シカゴ美術館（シカゴ・イリノイ・アメリカ）、ボストン美術館（ボストン・マサチューセッツ・アメリカ）、大英博物館（ロンドン・イギリス）、M+（香港）など多数。2021年4月22日から9月26日まで、森美術館（東京）のグループ展「アナザーエナジー展：挑戦しつづけるカー世界の女性アーティスト16人」、2021年10月パリ市立近代美術館（パリ、フランス）でのグループ展「Flame」に出展予定。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けると幸いです。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457

展示作品紹介（一部）：



三島 喜美代、Untitled、1965

ミクストメディア、H163 × W130.5 cm

その時の心情を表している。人が見てその人なりに感じてもらえれば良い。

作品への説明はなく、絵はそれで良いと三島は語る。何かを踏まえて作品を見るのではなく、それぞれの人の抱えている人生もあり、その人の立場で何を感じるかが大切だと思っている。

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2

Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089

T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



三島 喜美代、メモリーⅢ、1969
ミクストメディア、H162 × W130.5 cm
独立展出品作品

師でもあった三島茂司が購入した馬券で、全てはずれのもの。ご主人様にとってはいらなくて捨てる無用のものをもらって作品に使った。

競馬新聞もご主人様が競馬の予想をされたもので、ゴミになったもの。所々に赤鉛筆でマークされた跡がある。



三島 喜美代、作品A、1970年代
ミクストメディア、H162 × W130.5 cm
関西独立展出品作品

コラージュというよりは、広告のゲラや印刷物をトレーシングペーパーにコピーしてキャンバスに貼った。

作品に使われている LIFE Magazine はご主人様が購読していたもの。読んだ後きちんと整理してとってあったが、古くなっていらなくなったのでそれをもらって切ったりグチャグチャにして作品に貼っていた。



三島 喜美代、作品D
1970年代、ミクストメディア
H130.5 × W162 cm
関西独立展出品作品

外国に行く様になってからは、自分が気になる記事を目にした時それを買って作品に使っていた。それは自分の人生の記録として三島の作品に現れる。ごみみたいな、拾ってきたものを作品にしている。広告のゲラや印刷物は印刷屋さんが店の前に捨てていたものを拾ってきた。



三島 喜美代、Work 20-C4、2020
印刷したセラミックに手彩色・銅
H78 × W56 × D56 cm
2012 年から制作を始めた作品。現在では三島の代表作の一つとして国内外で周知されている。

ゴミになった新聞、飲み終わった缶など、捨てられるもの、用をなさないものを見て面白いと思った。これが現代だと思った。

ある日、飯場で工事のおじさんたちが飲み終わったコーヒー缶を次々にゴミ箱に捨てているのを見て、“これや”と思った。三島はいつも“現代”を意識している。